

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2019年9月15日

第16号

# すくらんぶる

## 最情報報

9.26

理事会

9.29

川中美樹氏講座

11.15

理事会

12.9

理事会

12.20

劇場代表者会

1.9

理事会

1.18

篠原久美子氏講演会

## 第18年度定期総会

2019年6月10日(月) 13:00~15:30 東彼杵町総合会館教育センター

今年度の総会は、午前に正会員団体である県内5つの子ども劇場の活動報告と活動交流がありました。模造紙に活動の写真を貼って紹介したものがあつたり、登場に鳴り物があつたり、それぞれ笑いも交えての楽しい報告でした。その後は参加者同士がたくさん話せるように活動ごとの交流を行いました。乳幼児活動、鑑賞活動、子ども活動の3つのグループに分かれ、それぞれ日頃の活動の問題点を出し合い、これからどんな活動をしていきたいかなどを話しました。長年関わっている人から若い人まで、幅広い年齢での交流になりました。どのグループも課題を共有し、今後何を大事に活動していきたいかなどがそれぞれから出され、今後の事業につながる交流になりました。



午後から行われた定期総会は、議長・書記の選出後、議長から正会員の議決権21票のうち出席18票、書面表決3票で総会の成立が報告されました。

第1号議案では、事業のまとめを担当理事が報告し、決算報告、監査報告があり可決されました。第2号議案の役員選出では、木下理事から後田理事に代表が交代するという提案がありました。また種吉理事の退任、監事の山口千恵子さんが退任し後任に川棚町の平田さんが選出されました。新しい体制の中での第3号議案では、県連の事業がもっと身近なものになるように劇場代表者会で新しく活動部会をすることが提案され、名称についての意見が出されました。また、予算案の中で事務局スタッフの活動費についても意見が出され、どちらも理事会で検討することを確認して可決されました。



今年の総会は活発な意見が出され、県連絡会の事業や活動が、子ども劇場の乳幼児活動の新たな視点への力になり、子どもの文化環境の広がりにつながっていると感じました。

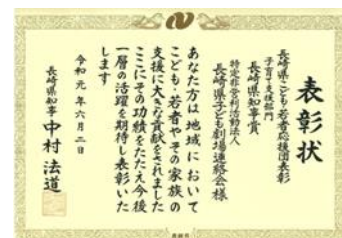


## 【県知事賞受賞】

令和元年6月2日、長崎県こども・若者応援団表彰において長崎県文化団体協議会からの推薦を受け、子育て支援部で長崎県知事賞を受賞しました。

表彰式では全受賞者を代表して「子どもがすこやかに育ってほしいという思いで活動してきました。受賞を励みにますます活動を広げていきたいと思えます。」と木下代表理事があいさつをしました。

子どもたちを真ん中に、大人と青年が共に考えあい、地域の人たちと共に文化活動をつくり続けてきた私たちにとっては大変嬉しい受賞でした。



# 第24回長崎県子ども舞台芸術祭典

子どもたちと生の舞台芸術との出会いを通して、子どもが生き生きと豊かに育つ地域づくりをすすめている長崎県子ども舞台芸術祭典は、1996年にスタートして今年24回目を迎えました。

取り組みの形は、地域の人たちでつくる実行委員会や祭典の趣旨に共感した行政や学童・保育園が主体になった公演など様々ですが、地域の子どもたちに生の舞台と出会ってほしい！という想いに支えられ、これまで1286公演を開催できました。



壱岐市 大島の三島小学校での公演

絵は、長崎日本大学高等学校のデザイン美術科の生徒さんに、祭典をイメージしてとても優しい絵を描いてもらいました。高校生と祭典との新たなつながりが出来たことはとても嬉しいことでした。



客席にも乱入！？大興奮の子どもたち



「楽しい時間をありがとう」  
「素敵なプレゼントをありがとう」

また来年の第25回長崎県祭典でたくさんのお会いや地域の変化がうまれていくよう、地域ごとの交流会で話しながらいねいに積み重ねていきたいと思ひます。

- \* 開催期間／2019年7月12日(金)～30日(火)
- \* 実施実績／県内11市、5町で44主催による50公演(参加創造団体7団体6作品)  
※五島市三井楽公演は、台風接近のため中止
- \* 参加人数／のべ8,648名  
(第1回～第24回の参加人数合計 238,571名)

第24回では、壱岐本島からさらにフェリーで渡った大島にある全校児童4名の三島小学校で、子どもたちと人形劇との初めての出会いをつくることが出来ました。また、江迎地域では新たなメンバーで7年ぶりの取り組みとなり、県南・県央地域でも学童クラブからの問い合わせを受けて仲間と舞台を楽しむ機会が増えるなど、4つの地域で新たな取り組みが実現しました。

また、全公演日程を掲載したリーフレットによる周知が広がり、電話での問い合わせが増えてきていると同時に、今年はいくつ観ることができるかなと親子で相談しているという嬉しい声もたくさん聞かれました。このリーフレットの表紙



夢いっぱいリーフレットの絵

公演期間中、各地から届く公演の様子と写真には、子どもたちや大人たちの笑顔がいっぱい！その一つひとつの出会いがかけがえのない時間だったことが伝わってきました。そんな中、台風接近のため、五島市三井楽町での公演が中止になったのはとても残念でした。自然の力を前にしてはどうすることもできませんが、災害時の時にも生きるつながりを、あそび・文化を大切に活動を通じて地域の中でつくっていかれたらと思ひます。

全公演が終了した翌7月31日は、全体事後交流会でした。今年は平日の開催となり、参加状況が心配されていましたが、30実行委員会から75名(大人53名、子ども22名)、創造団体、祭典推進スタッフを合わせると総勢95名という嬉しい参加状況でした。全体事後交流会のお楽しみは、実行委員会と創造団体によるパフォーマンスの発表です。事前交流会で内容の確認をしてからのぶっつけ本番ですが、子どもたちはもちろん皆さんの弾ける笑顔がとても印象的でした。後半のグループ交流では、取り組みを通してうまれた新たな出会いやつながり、地域で見えてきた小さな変化など、それぞれの実行委員会から出し合いました。継続していくことは決して楽しいばかりではありません。声をかけても思うように地域の参加者が広がらないなど、不安や課題を抱えながらの取り組みが多い中、こうした小さな変化の共感・共有が次への原動力になっていきます。



海の生き物に変身！事後交流会のパフォーマンス



子ども劇場の特徴は『観る』ことです。様々な生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思いで活動しています。舞台と観客との関係を玉川大学名誉教授の岡田陽氏は「すう」と「はく」の関係と言っています。舞台上の表現を受け取り、観客も表現する。また役者も観客の表現を受け取りさらなる表現へとつながる。そんなやり取りが劇場の中にはあふれています。観る体験を通して育くまれる「想像力」や「創造力」、「共感」や「違和感」は人間の生きる知恵につながります。

新しく始まったこのコーナーでは、舞台芸術や観劇にまつわるいろいろな体験をリレートークで連載します。

半世紀以上も前、私の子ども時代には観劇の機会はほとんどなかった。時々お祭りにやってくるちよっとうらぶれた雰囲気サーカスや、父に連れられて福岡で見た華やかなポリシイサーカスなどが記憶に残っている。観劇ではないが、演劇との出会いは学芸会である。小学校で『きつねとつる』の鶴や『かぐや姫』の村の子ども、『彦一とんち話』の彦一を演じた。4年生の時は、社会科の授業で脚本を書きグループで劇もした。昔は弁当を山ほど食べてようやく目的地に着く。交通が発達すると弁当を食べる間もなく目的地に到着する。そんなたわいもない劇なのだが、グループの皆で知恵を出し合い、小道具なども作って演じたことを覚えている。イソップ物語の『きつねとつる』はキツネ役がクラスで一番やんちゃな男の子で、喧嘩をしながら練習した。喧嘩の原因は、彼は完ぺきにセリフを覚えているのに私がいつまでたっても覚えていなかったからだ。案の定本番でもセリフを忘れて黙り込んだ私なのだが、私のセリフまで覚えていた彼が小さな声で教えてくれたのだった。彼の普段の乱暴なイメージとは正反対の優しさに、私の彼への評価は一変した。『かぐや姫』では、本当は村の子どもではなく月の使者をやりたかったのだが、先生の一声でなんと理不尽な思いながら、しぶしぶ村の子どもを演じた。『彦一とんち話』は彦一がなぜ男子ではなく私なのか、理由は覚えていないが決まってしまった。物事は自分の思い通りにはいかないものだが、やはり私は月の使者ではなく村の子どもや彦一の方があっていたなあなどと今になって思うのである。今では学芸会はなくなってしまった行事のようだが、学芸会を通じて学んだものは意外に多いように思う。

そんな私が初めて演劇を観たのは、18歳で上京した秋。唐十郎主宰の劇団『状況劇場』の『鉄假面』であった。赤テントの中にぎゅうぎゅうに詰められた観客。観客を押しつけるながら踏みつづす勢いで登場する役者。難解な言葉がマシンガンのように飛び出すセリフの応酬。奇妙な世界に迷いこんだかのように舞台に溶け込む観客、そしてひとりひとりの心の動きが発信され互いに触れ合う部分を通じて大きなエネルギーとなって、テントの中は高揚感と一体感に満たされる。今思い出してもワクワクドキドキするような、なんともエネルギー溢れる舞台との出会いだった。70年代はいわゆるアングラ（アンダーグラウンド）と呼ばれる、大衆的ではなく前衛的な演劇がたくさん上演されていたのだが、この作品は、頭で理解するのではなく、感じる作品だったように思う。時間と共に感覚は研ぎ澄まされ、観終わった後は十分に心動かされた満足感と虚脱感があった。この初めての体験で、観る楽しさを知った。次に足を運んだのがミュージカル『俺たちは天使じゃない』。物語のおもしろさと歌から得る感動、そしてなんといっても、脱獄囚役の有島一郎と西村昇の芝居のうまさで、演劇の楽しさをまた違う一面から感じる事ができた。その後も好きなアーティストのコンサートや演劇に足を運び、子ども劇場に入ってから子どもと一緒に様々なジャンルの作品をたくさん観た。そして子どもが育った今でも観続けている。

(中山智子/ 諫早子ども劇場)

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名		場所	主催
重松壮一郎ピアノコンサート (みずのえ)	9月16日(祝)17:00開演	波佐見町総合文化会館小ホール	はさみ子ども劇場
こまのおっちゃんのこまのサーカス (日本独楽博物館)	9月23日(祝)14:00開演	諫早市民センター	諫早子ども劇場
スクラム☆ガッシン〜 準備完了第2号計画 (劇団 風の子)	10月18日(金)19:00開演	長崎市平和会館ホール	ながさき子ども劇場
はれときどきぶた (人形劇団ひとみ座)	11月30日(土)18:00開演	波佐見町総合文化会館小ホール	はさみ子ども劇場
	12月1日(日)15:00開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	12月3日(火)19:00開演	壱岐の島ホール中ホール	壱岐子ども劇場
	12月5日(木)19:00開演	諫早文化会館中ホール	諫早子ども劇場
ドラマリーディング (長崎ドラマリーディングの会)	12月14日(土)19:00開演	長崎大学創楽堂	ながさき子ども劇場
べっかんこおに (劇団なんじゃもんじゃ)	12月14日(土)14:00開演	アルカス佐世保 SASEBO 第1リハーサル室	佐世保子ども劇場

**NPO 法人  
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26  
北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

**県内子ども劇場**

ながさき子ども劇場  
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場  
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場  
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場  
TEL: 0920-44-5010

はさみ子ども劇場  
TEL: 0956-85-4273

**Web サイト**

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

**発行**

**NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会**

**乳幼児プロジェクト企画**

◆川中美樹さん講座

9月29日(日) 14:00~16:00

たらみ図書館講座室1、2 参加費1200円(先着30名)

「うたのたね」に出演されている川中美樹さんによる、2002年から取り組まれているベイビーシアターの創作と取り組みを通して見えてきた、赤ちゃんの力、ベイビーシアターの今、これからなどのお話です。

◆乳幼児鑑賞会「うたのたね」～おんがくのはじまり～ 対象:0~2歳児親子

11/21(木) 10:45開場開演 壱岐の島ホール中ホール(壱岐市)

11/22(金) 10:30開場開演 メルカつきまちホール(長崎市)

11/23(土) 10:30開場開演 たらみ図書館海のホール(諫早市)

11/26(火) 10:30開場開演 アルカスSASEBO第一リハーサル室(佐世保市)

豊かな四季のある日本に伝わるわらべうたを中心にほっこりあたたかくなる音の”原風景”を集めてみました。赤ちゃんとお父さんお母さん、みんなで丸ごと感じてみませんか?  
(参加費は開催地域の子ども劇場までお問い合わせください。)

◆脚本家・篠原久美子さん講演会～「わからない」は、たからもの～(仮題)

2020年1月18日(土)

おとなとこどもの間のみなさんにおくる講演会。

「皆が優しくなれば戦争はなくなる」という願いに突き付けられた現実。ひるむことなく、真の現実と本質を見据えたいという思いなど「チト みどりのゆびをもつ少年」の脚本を手掛けた篠原久美子さんのお話です。

**団体概要** 子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に2003年にNPO法人として活動を開始しました。長崎県内にある5つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。「長崎県子ども舞台芸術祭典」、講演会や学習会などの事業を行っています。

★編集後記★

2006年施行の教育基本法に新たに設けられた『家庭教育』(第10条)に「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」とある。子ども・若者教育白書によると児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数が2006年37,343件、2017年133,778件あったそうである。6月に児童福祉法の一部改正が行われ「親権者は、児童のしつけに際して体罰を加えてはならないこととする。」などの権利擁護が加えられた。児童福祉士や児童心理士なども目標をたてて増やしていくプランらしい。しつけと称しての虐待があつたのではないのは、親たちが孤独な子育ての中『家庭教育』をまじめに実践しているからではないだろうか。主たる虐待者のトップは実母である。(N)

子どもに夢を!  
たくましく豊かな創造性を!  
私たちは子どもの文化を応援します。

長崎角煮まんじゅう  
岩崎本舗

立石産婦人科医院

諫早市栄町7-6  
TEL0957-22-0292

〒854-0072 諫早市永昌町43-6  
医療法人 マツオ内科クリニック  
TEL 0957-25-2225  
FAX 0957-25-2220

佐世保の中心、ビジネス&観光に。  
セントラルホテル佐世保  
〒857-0872 佐世保市上京町3番2号  
Phone 0956-25-0001  
0120-69-0511

白山陶器株式会社  
白山陶器

〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷1334  
TEL. 0956-85-3251 FAX. 0956-85-6630

一般財団法人 長崎ロープウェイ・水族館  
長崎ペンギン水族館  
Nagasaki Penguin Aquarium

ダイハツタクシー  
有限会社 林田車体工業  
〒854-0126 諫早市松里町288 TEL 23-5318 FAX 24-1378

ホテル周辺にはコンビニ・飲食店街あり。  
全客室ネット接続無料! 有線LAN・Wi-Fi回線完備

ホテル ウイング・ポート長崎  
JR長崎駅より徒歩3分  
☎095-895-5774 http://www.wingport.com

ホテル ジャノメ  
諫早市永昌東町1-39 [JR諫早駅前]  
TEL.0957-22-0529  
FAX.0957-22-3181